

未来ファンドおうみ2012 採択団体成果発表会

スケジュール

- 14:45 「びわ湖の日基金助成」採択3団体発表
ホタルの学校
- 14:58 特定非営利活動法人びわ湖トラスト
- 15:11 白鳥川の景観を良くする会
- 15:24 「びわこ市民活動応援基金助成」採択4団体
特定非営利活動法人かじやの里
- 15:37 エコツーリズム協会しが
- 15:50 特定非営利活動法人外出支援ボランティアスマイル
- 16:03 特定非営利活動法人マザー・サブリ
- 16:16 休憩
- 16:25 「おうみNPO活動基金」採択3団体発表
トボス(TOPOS)
- 16:38 特定非営利活動法人元気な仲間
- 16:51 マキノまちづくりネットワークセンター
- 17:04 委員講評
- 17:30 終了

日時：2013年4月13日(土) 14:45～

会場：県民交流センター207会議室

未来ファンドおうみ2012採択団体名簿

受付 番号	事業区分	NPOの名称	事業名	助成金	事業概要
1	おうみNPO活動基金	トボス(TOPOS)	石山まちかど教師塾	500,000	教員の資質の向上を目指した、教員志望の学生を支援する、地域における教育実践研究プログラムの創出。石山において、地域自治体と協働し滋賀大学を中心とした教員志望の学生の実践研究の場を創出。地域、学生、企業、NPO等の集まる交流会を企画。教員志望の学生の教育実践を向上させる研修や研究会を開催。祭事に合わせ、イベントを開催。教員志望の学生、企業人、学者、地域市民と協働し、コミュニティを形成する。
2		特定非営利活動法人元気な仲間	地域ささえあいネットワーク事業	1,000,000	かつて、地域には近隣同士の暖かいふれあいや助け合いがありました。しかし、昨今社会構造が大きく変わり、昔のような社会の中で、新しい支え合いのあり方を皆で考え「自分たちの住むまちを自分たちの手で住み続けられるようにしたい！」行政に任せたり、頼るだけでなく、地域住民、地域住民みなさんでお互いに助け合っていくという趣旨で行われている活動がはまっています。この事業は今の時代にあったふれあいや助け合いの活動をしていただける地域住民を増やし、その活動をしやすいお手伝いのために講座実施やネットワーク化など、活動していただける個人個人の横のつながりを造るとともに、現在高島で行われている住民参加の仕組みを実施されている団体の皆さんとも一緒に考えたり、勉強したりする団体と団体の横のつながりをつくっていきます。また地域住民同士のふれあいの居場所の運営も行い、実際に地域での活動につなげます。
3		マキノまちづくりネットワークセンター	マキノ・森の妖精”かたくり”が棲む里山再生整備事業	500,000	里山再生サポート事業は、子ども、青年、熟年層など多様な人々によるサポーター集団「里山しばり隊」を結成して行う。再生整備活動フィールドを提供してくれる協力者も募集し整備を行う。そこへの参加者及び協力者の交流、親睦の機会として、「里山交流会」(講演会・体験)を開催する。継続した活動とするための意識づくりの機会や、整備活動による「しば」を有効活用し、燃料として石窯ビザ作り体験を行い、マキノ・森の妖精”かたくり”が棲む里山再生整備事業を有効的に実施する。
4	びわこ市民活動応援基金	特定非営利活動法人かじやの里	元気いきいき・かじや市民大学	300,000	「高齢者いきいき支援事業」「生涯学習を支援する事業」の新展開を図る目的で、「かじや市民大学」を立ち上げる。NPO設立の前年11月から、園芸塾として、庭園管理を中心テーマに2年あまり活動を展開してきた。いまでも正月用松竹梅教室、苔玉教室等に地元NPO会員を含む人たちの参加を募ってきた。今回の試みは、NPO会員だけでなく、一般の人たちが参加しやすい仕組み、講座を設けることで、多世代かつ広域からの参加を目指す。
5		NPO法人マザー・サブリ	子育て親子のこころとからだの健康を推進する事業	242,000	児童館やつどいの広場など、子同士の関わりや遊びの支援を受けられる場所や機会は多くあるが、親が子どもと離れ、親自身の時間を過ごせる場所や機会はなかなか持てない。毎日の子育ての中、親は自分の時間がないことで、ストレスを感じ、そのストレスで子どもとの関わりもうまくなっていく場合も少なくない。24時間、子どもと一緒にいることで、子どもとうまく関われなくなっている親子に対して、それぞれが離れて過ごす時間を持つことによって、新たな親子関係が築けるように支援する。子育て支援の子どもだけでなく、親の支援にも力を入れていきたいと考えている。親の支援をすることが、子どもの支援につながると考えている。
6		特定非営利活動法人外出支援ボランティアスマイル	外出支援ボランティア事業	300,000	当地区は、医院・銀行・商店などが遠隔しており、さらに公共交通機関の利便性に乏しいため、自ら交通手段を持たない人にとっては、生活に不便を感じている。ことに、高齢者や障害者にとっては、通院や買い物にドアからドアへの送迎という支援が必要不可欠であり、なくてはならない活動となっている。また、ボランティア活動として、外出支援を行う運転者と支援を受ける利用者とのふれあいが、互いの生きがいやいちは地域の福祉の増進につながっているものと思われる。事業の運営にあたっては、竜王町福祉課、竜王町社会福祉協議会、介護支援事業所のヘルパーやケアマネジャーなど介護者の方、地域の民生委員などと綿密な連絡を取りながら行っている。
7		エコツーリズム協会しが	地域を元気に！エコツーリズム・プラットホーム事業	200,000	滋賀県内でも体験を重視したツーリズムの受け入れが活発化してきた。すでに、県内各地で着地型の観光が進められているが、県全体として大きな市場とはなり得ていない。このような中、近年宿泊型で滋賀の自然や歴史文化や人などの地域資源を活かす体験型教育旅行が注目されており、県内の一部の市町で児童・生徒を受け入れる先進的な取り組みが始まっている。しかし、大人や学生の体験旅行は、地域完結型がほとんどで、全体が把握されていない状況にありより一層の市場の開拓と効果的なツーリズムを展開するには、受け入れに関する全体把握とプログラムの開発、受け入れ先のネットワーク化および交流研修を推進し、地域が主役となって取り組む交流事業により地域活性化を促進する。そこで本事業は、観光分野における滋賀ブランドの確立を目指して、プログラム開発とエージェントをつなぐネットワークシステムを構築することを目指す体制づくりを進めるものであり、この取り組みにより、滋賀の観光産業を活性化させていきたい。地域の元気再生には交流人口を増やし経済効果をもたらすツーリズムが早道である。
8	びわ湖の日基金	ホテルの学校	みんなで守るホテルと川	160,000	大津市南郷を流れ、ホテルがたくさん生息している千文川で、平成元年よりホテルの観察・保護活動をしてきましたが、こどもたちの「ホテルを守りたい」という願いを受け止め、平成15年「ホテルの学校」を開きました。「ホテルの夕べ」や学区の文化フェスティバルでは、子ども達とともに地域発信をして多くの方に楽しんでいただき、ホテルや川の生きもの観察やゴミひろい等をして、ホテルと川をみんなで守っています。
9		NPO法人びわ湖トラスト	湖岸に漂着したゴミの分別調査回収事業	270,000	2008年創設以来、琵琶湖水域の保全を図る為、湖底調査を継続的に支援しており、湖底には人知れず堆積しているゴミがあると共に、船でしかアクセス出来ない場所にも多くのゴミが漂着している。地元住民・漁連・協力団体・当NPO会員ら約130名前後で2009年、2010年はつづらお崎に船で渡り各年ともトラック4台分、2011年は沖島西岸船で渡り、約2tを分別回収してきた。2012年度も守山沖の陸からは近寄りくい湖岸域で漂着ゴミを回収する事業を継続する。この調査を通し、自然に分解される物ではなく、廃プラから大型冷蔵庫まで放置されることにより、琵琶湖の健全な自然浄化作用が妨げられることになる。この現実を広く、多くの方に知ってもらい、不特定多数の方に「チョットぐらいの気持ちのゆるみ」を是正する啓蒙活動を継続していきたい。
10		白鳥川の景観を良くする会(景観隊)	白鳥川桜並木の育成管理と市民親の散策路づくり	300,000	月2回を活動日として、当会の活動区間の白鳥川右岸等にある約620本の桜の木を管理台帳に基づき育成・管理を行い滋賀県の桜並木の名称となるよう育てる。同時に、琵琶湖へのゴミ流入による汚染防止のためポイ捨てごみの回収を行う。また、地域活性化及び桜並木を含めた自然環境維持向上の啓蒙活動として、花見シーズンに公募デザインによる「ぼんぼり」を桜並木に設置すると共に、地域住民提供による「鯉のぼりの川渡し」を行う。

<事業名> 10周年記念事業 ～みんなで守るホタルと川～

<計画目標と達成度>

ホタルの学校を開校して10年目を迎えました。通年事業として、5月～11月の千丈川における「川の生きものたんけん」、6月の「ホタルのタベとホタル観察会」、8月の「琵琶湖博物館学習(昆虫採集等)」、11月の「南郷学区文化フェスティバル作品展示」、12月の「食育と手作り工作」、1・2・3月の冬の生きもの観察・ホタル学習等といったスケジュールで実施してきましたが、今年度も通年に沿って活動しました。

特に今年度は、10周年を記念して、「ほたるのタベ」を昼間に移行し「ほたるの集い」を開催。子どもたちの活動発表や手作りクイズ、コンサートなど、時間の制約のない中、ゆったりとした雰囲気の中で地域の方々に楽しんでいただきました。(達成度は100%)

千丈川の親子ホタル観察は、「ほたるの集い」の夜と、後1日、計2日間実施し、たくさんの親子で観察し、ホタル保護の意識を高めました。(達成度100%) また、個人で継続してホタル観察記録をつける子どもたちもいました。

8月の親子で楽しむ琵琶湖博物館での昆虫採集と観察描画も実施。(達成度100%)

11月の南郷学区文化フェスティバルでも、子どもたちの手作り作品、生きものたんけん時の生きものの絵と感想文・ホタル俳句・クイズラリー等の展示、そして子どもたちによる来場者との交流・聞き取り調査を実施しました。(見学者2日半で約400人、達成度100%)

12月のクリスマス会では食育と手作り工作(石膏版画作り・まつぼっくりのクリスマスツリー作り)を実施。子どもたちの保護者やサポーター手作りの近江牛が入ったカレーライスは大好評。12月2日に「淡海こどもエコクラブ」の活動交流発表会において大賞を受賞し、お祝い会もいっしょにさせていただきました。(達成度は100%)なお、滋賀県代表として、3月24日、東京でのエコクラブ全国フェスティバルに出場し、子どもたちは活躍しました。

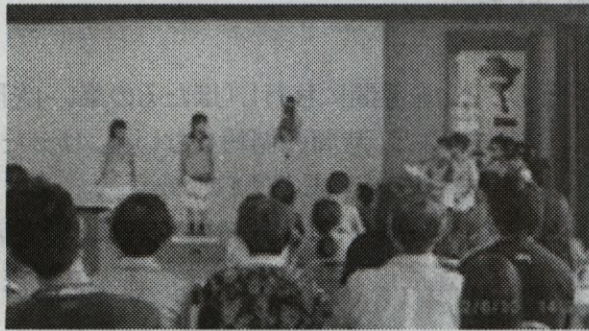
冬に「千丈川ものがたり」のカルタ(過去4年間で子供たちが作ったカルタ)の製本化を予定していましたが、大賞受賞により、こどもエコクラブ全国大会出場にむけての準備や2月に近畿子ども水辺交流会出場、当初予定していなかったホタルの学校はじめての企画「冬鳥観察会」を実施するなど、製本化が時間・費用等の関係上、延期となってしまいました。(製本化の達成度は0%)

今年度は、当初予定していなかった事が多々ありました。8月、南郷学区を襲った集中豪雨により、山崩れや水害などの被害が出ました。10日後に子どもたちと、生きものへの影響を観察するため、「千丈川生きものたんけん」を実施し、この体験が「淡海こどもエコクラブ」の大賞受賞時に、発見力・観察力を大きく評価され、ホタルの学校として、うれしい10年目を迎えることができました。(琵琶湖博物館にてホタルの学校の作品を展示中)

＜活動の成果(地域社会への影響など)＞

「ほたるの集い」では、今年も地域の人たちがたくさん集ってくださいました。老人会のコーラスグループは、毎年、蛍の歌(後世に残していきたい歌)を歌ってくださっていますが、子どもたちからの手作りクイズ等も楽しみにして下さっています。今年度も暖かい交流ができました。また、ホタルの学校での思い出話を卒業生(大学生・高校生)や南郷小学校の清水校長先生からも会場で聞くことができ、継続活動の意義を再確認いたしました。

今年度も「ほたるの集い」や「ホタル観察」「生きものたんけん」など、卒業生が手伝いに来て、ホタルや生きものを大切にする心を後輩たちに伝えてくれていました。



秋の「南郷学区文化フェスティバル」では、展示からホタル保護の啓蒙活動、そして子どもたちと見に来てくださった地域の人たちとの心あたたまる交流(クイズラリーや作品展示の紹介、昔のホタルの思い出話等の聞き取り)ができ、地域活動としての深まりを感じることができました。

子どもたちのメッセージが込められた「千丈川にゴミを捨てないで!」のポスター設置は、5年前から実施し、効果は出てきているのですが、12月に入って河床のごみが多いのを見し、心を痛めた子どもたちは、自発的にゴミひらいをしてくれました。そのことが端を発して、12月27日、ホタルの学校として、ごみひらいを実施しました。多くの子どもたちが集まって道路・河床のごみ合わせて、可燃ごみ4袋分、空き缶・ビン等を集め、感想文に「疲れたけど千丈川をきれいにできてうれしかった。すっきりした。」と社会参加できた達成感を感じてくれているようでした。地域の人たちからも喜んでいただきました。



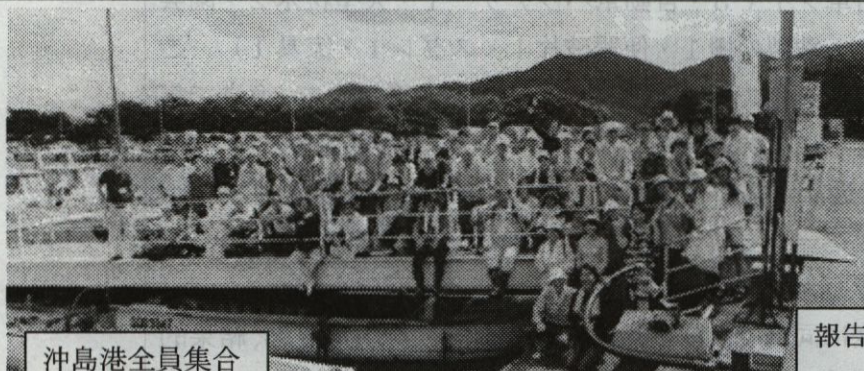
＜今後の課題＞

地域活動以外の他団体との交流活動が、負担にならないようにすることでしょうか?
(中示題各品計の対学の小やホア二離断断断断断)。式Jもきフなふこる天取春日、

団体名 **NPO法人びわ湖トラスト**

当初計画の概要	■湖岸に漂着したゴミの分別調査会集事業 地元住民・漁連・協力団体・当法人会員ら100名前後で船でしかアクセスできない場所なども含め、漂着しているゴミを回収し、分別調査する。 この調査を通じ、自然に分解されるものではない、廃プラや大型冷蔵庫などが放置されることにより、琵琶湖の健全な自然浄化作用及び景観を妨げられることになる。この事実を広く不特定多数の方に知ってもらい、琵琶湖および自然の大切さについて一考していただく機会とし、当法人の通例行事としたい。				
最終報告までの実績・到達度	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="416 666 1289 970">■実施結果内容</th><th data-bbox="1289 666 1503 970">達成度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="416 970 1289 2145"> びわ湖で、人の住む唯一の島を地元の人々と協力して、湖岸を美しくするため、複数のNPO団体・地元漁師さん・沖島自治会・消防団・関係役所などと準備打合せを重ね、多大な協力を得て、9月16日に晴天に恵まれ、清掃・ゴミ回収・分別活動を当初のスケジュールどおり実施した。 ■当日参加者 NPO関係者、地元や自体関係者16名、大学生14名（中国留学生含む）や小学生も含め100名だった。 ■ゴミ回収結果 ①燃えるゴミ（154袋・ビニール・ペットボトル・魚網・家具の破片・書籍など）、②燃えないゴミ（9袋・主に官や鉄類・ビンは少なめ）、③大型ゴミ（船の一部破片7・業務用什器の一部1・軽乗用車タイヤ5・自動車バッテリー1・大型材木2・園芸用パイプ2・鉄製の柵1・便器破片1・スダレ1・家具1） ここで沖島が観光地であり休日は特に観光客が多いので、漁港で集めたゴミを広げて分類する作業は臭いや埃などで迷惑をかけることから、近江八幡市役所の分別方法に従い、袋の数をカウントした。次ページ写真のように昨年の3分の1ほどの量であった。ここでもえるプラスチック類が大量回収された。 また前年度に同島で湖岸清掃を実施した経験が活かされ、結果的には西岸だけでなく港周辺の清掃も出来た。 ■活動支出結果 当初予算27万円のうち大半を占めていた4隻の漁船チャーター費は地元漁民の協力で当初全予算の30%以下にして頂いた。他の諸経費も関係者の協力で低減できた。例えばボランティアの皆さんの昼食は、他団体の手作りで賄われ、地元食として、びわ湖の魚の佃煮について漁協の皆さんから頂いた。 ■追加成果 船のチャーター費用が大幅に減額できる事になり、実行前にファンド側の了解を得て、今までできていなかった、動画での記録お </td><td data-bbox="1289 970 1503 2145">100%</td></tr> </tbody> </table>	■実施結果内容	達成度	びわ湖で、人の住む唯一の島を地元の人々と協力して、湖岸を美しくするため、複数のNPO団体・地元漁師さん・沖島自治会・消防団・関係役所などと準備打合せを重ね、多大な協力を得て、9月16日に晴天に恵まれ、清掃・ゴミ回収・分別活動を当初のスケジュールどおり実施した。 ■当日参加者 NPO関係者、地元や自体関係者16名、大学生14名（中国留学生含む）や小学生も含め100名だった。 ■ゴミ回収結果 ①燃えるゴミ（154袋・ビニール・ペットボトル・魚網・家具の破片・書籍など）、②燃えないゴミ（9袋・主に官や鉄類・ビンは少なめ）、③大型ゴミ（船の一部破片7・業務用什器の一部1・軽乗用車タイヤ5・自動車バッテリー1・大型材木2・園芸用パイプ2・鉄製の柵1・便器破片1・スダレ1・家具1） ここで沖島が観光地であり休日は特に観光客が多いので、漁港で集めたゴミを広げて分類する作業は臭いや埃などで迷惑をかけることから、近江八幡市役所の分別方法に従い、袋の数をカウントした。次ページ写真のように昨年の3分の1ほどの量であった。ここでもえるプラスチック類が大量回収された。 また前年度に同島で湖岸清掃を実施した経験が活かされ、結果的には西岸だけでなく港周辺の清掃も出来た。 ■活動支出結果 当初予算27万円のうち大半を占めていた4隻の漁船チャーター費は地元漁民の協力で当初全予算の30%以下にして頂いた。他の諸経費も関係者の協力で低減できた。例えばボランティアの皆さんの昼食は、他団体の手作りで賄われ、地元食として、びわ湖の魚の佃煮について漁協の皆さんから頂いた。 ■追加成果 船のチャーター費用が大幅に減額できる事になり、実行前にファンド側の了解を得て、今までできていなかった、動画での記録お	100%
■実施結果内容	達成度				
びわ湖で、人の住む唯一の島を地元の人々と協力して、湖岸を美しくするため、複数のNPO団体・地元漁師さん・沖島自治会・消防団・関係役所などと準備打合せを重ね、多大な協力を得て、9月16日に晴天に恵まれ、清掃・ゴミ回収・分別活動を当初のスケジュールどおり実施した。 ■当日参加者 NPO関係者、地元や自体関係者16名、大学生14名（中国留学生含む）や小学生も含め100名だった。 ■ゴミ回収結果 ①燃えるゴミ（154袋・ビニール・ペットボトル・魚網・家具の破片・書籍など）、②燃えないゴミ（9袋・主に官や鉄類・ビンは少なめ）、③大型ゴミ（船の一部破片7・業務用什器の一部1・軽乗用車タイヤ5・自動車バッテリー1・大型材木2・園芸用パイプ2・鉄製の柵1・便器破片1・スダレ1・家具1） ここで沖島が観光地であり休日は特に観光客が多いので、漁港で集めたゴミを広げて分類する作業は臭いや埃などで迷惑をかけることから、近江八幡市役所の分別方法に従い、袋の数をカウントした。次ページ写真のように昨年の3分の1ほどの量であった。ここでもえるプラスチック類が大量回収された。 また前年度に同島で湖岸清掃を実施した経験が活かされ、結果的には西岸だけでなく港周辺の清掃も出来た。 ■活動支出結果 当初予算27万円のうち大半を占めていた4隻の漁船チャーター費は地元漁民の協力で当初全予算の30%以下にして頂いた。他の諸経費も関係者の協力で低減できた。例えばボランティアの皆さんの昼食は、他団体の手作りで賄われ、地元食として、びわ湖の魚の佃煮について漁協の皆さんから頂いた。 ■追加成果 船のチャーター費用が大幅に減額できる事になり、実行前にファンド側の了解を得て、今までできていなかった、動画での記録お	100%				

	よび編集をびわ湖放送に依頼し、プロモーション用DVDを制作することができた。びわ湖トラストでは、人が入り難い場所のびわ湖の清掃活動を行っているが、このDVDを各種セミナーや子供の環境学習などで活用し琵琶湖環境を維持する啓発活動に貢献する。 ■広報および記録 参加者募集は、チラシをつくり、ホームページ上で公開するとともに、未来おうみファンドさんや今まで協力してくれている有志の方々に配布した。 ■安全対策 参加者が漁船に乗り、作業を行うことから、救命胴衣を100着大津市雄琴にあるオーパルから、@50円で借用した。また、現場での安全対策を地元消防団へお願いし、市の消防船が現場待機してくれた。ボランティア活動保険も掛けた。 ■予期せぬ効果 両親と参加した小学生が「ボランティア活動は人が喜んでくれる」と意義深い作文を投稿してくれた。勇気づけられるとともにその精神を広めたい。	
課題・今後の改善 方策など	■参加者の多様化 年輩者が多く、今後の展開力が望まれる。大学生や親子の参加者にも呼びかける。 ■広報の強化 今回は、大型のゴミは漁業に由来するものが多く、河口付近では農業に由来するもののレジャー関係のものが多いことから、農協関係者や観光事業関係者にも呼びかけて、広がりのある活動としたい。そのため、チラシ・ホームページだけでなく、マスメディアや制作したDVDの活用を積極的に行う。	



沖島港全員集合



沖島湖岸回収ゴミ

報告写真類は下記ホームページ参照
<http://www.biwako-trust.com/report/H24/c916oki.html>

2012年度取組活動 実績報告書

(1) 白鳥川桜並木の育成管理と自然環境整備

白鳥川の景観を良くする会
(吉田栄治)

	＜内容・目標＞	＜実 績＞	＜実施率＞	＜備考＞
1. 定例活動日	・年間24回(毎月第1・3水曜日)	・年間22回開催	92 %	・雨天で回数減
2. 参加人数	・年間720人参加(30人/回)	・年間697人参加(32人/回)	97	・雨天で人数減だが、回当りは達成
3. 活動場所	・白鳥川JR～湖畔の約5km、十 ・藤間川:医療センター～白鳥川合流点 900m	・白鳥川JR～湖畔の約5km、十 ・藤間川:医療センター～白鳥川合流点900m	100	
4. 活動内容	①除草作業 ②ごみ回収 ③名勝・桜並木づくり(650本管理) ・天狗巣病枝駆除 ・害虫駆除 ・枯損木の補植(植樹)	①除草距離 延べ15.5km/年 ②ごみ回収量 2.665kg ③管理台帳で1本1本管理 ・天狗巣病枝の駆除 8回/年 ・防虫駆除 1回/年 ・補植18本	100 100	

(2) 市民・憩いの散策路づくり

	＜内容・目標＞	＜実 績＞	＜実施率＞	＜備考＞
1. H24年春 ぼんぼり設置	①設置数:50灯 ②デザインや製作:会員手作り ③設置場所:白鳥川右岸 ④設置期間:3/下～4/中	・設置数:50灯 ・デザインや製作は会員オリジナル ・白鳥川右岸約250m ・3/下～4/中	100 %	・予定通りに実施
2. H25年春 ぼんぼり設置	①設置数:100個(含前年150個) ②絵柄や標語:公募の子ども達が作成 ③製作は外注、組み立ては会員 ④設置場所:白鳥川右岸(約750m) ⑤設置期間:3/下～4/中	・前年と合わせ176灯 ・桐原東小学校5年生、エコ村や白鳥川 自治会、クラフトキッズ、会員の身内や 知人 合計265枚応募頂いた ・ぼんぼり組立て、3日間延べ90名で作業 ・設置:白鳥川右岸約900m、3/20～4/17	118	・子ども達の絵柄 が増えた分ぼん ぼり数が増え、設 置距離が伸びた
3. 鯉のぼりの 川渡し	①設置数:公募で30匹(H24年春)、 50匹(前年と合わせ80匹) ②場所:白鳥川/藤間川合流点 ③設置期間:4/10～5/10	・全体で30人より79匹寄贈受ける (まごい24,ひごい25,子ごい20,吹き流し10) ②市立医療センター前の白鳥川に設置 ③4/17～5/16	99	
4. 休憩ベンチ の設置	・設置数:3脚 ・製作:外注 ・設置:当会員による設置 ・設置場所:白鳥川右岸散策路 (土田大橋付近)	・資金不足のため今年度は中止し、次 年度事業とする	0	・計画の甘さもあつ たが、今後はこの様 な事にならないよう 検討したい

(3) 活動の成果

①全般的に年間を通し順調に推移、特に定例活動の白鳥川桜並木の育成管理と自然環境整備の活動は、ほぼ予定通りの成果で流域の景観向上に寄与、また憩いの散策路の900m点灯ぼんぼりは街の大きな話題づくりに貢献。
②市民・憩いの散策路づくりのぼんぼりは、多くの方より好評で、特に子ども達とのコラボで予想を上回る絵の参加で反響の高さを感じ、白鳥川の桜並木に設置した点灯のぼんぼりは市長はじめ多くの方から評判、夜桜の人数が多かった、
③鯉のぼりは親子づれや入院患者さん達が元気になると喜んで頂き、退院された方が当会の活動に入会、現在の続行中。

(4) 今後の課題、他

①若手会員の増強と後継者育成… 停年延長や退職後の働く意識が高まり、ボランティアへの参加に低調状況化、対応必要
②会員相互の情報共有化…取組活動が多くなり、会員への連絡徹底や緒要請が多くなり、スムーズな情報共有化が急務。
③活動資金の確保…事業取組も多くなり、取組資金の安定確保の見通しがたらず、いつも不安な事業取組の改善が必要。
④関係団体との連携強化…少子化の中、今後の取組み活動を進めるにあたって、関係団体と連携や相互協力が急務。

取組活動写真

金さき>見参時衆の川黒白

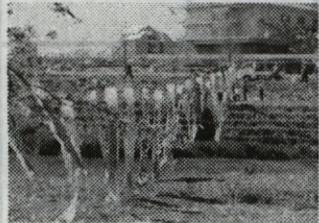
◆除草作業、回収ごみの写真



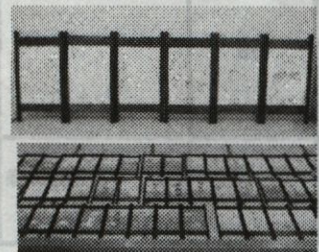
◆樹木の剪定、天狗巣病駆除、防虫消毒、補植作業の写真



◆鯉のぼりの川渡し、桜ぼんぼりのコード結線の写真



◆桜ぼんぼりのパネル組み立て、桜木に設置時の写真



◆桜ぼんぼりの点灯式、点灯した桜ぼんぼりの写真



◆小学生の環境体験学習の支援、毎回集合写真(今日も元気なメンバー達)



未来ファンドおうみ助成事業2012

びわこ市民活動応援基金助成事業実績報告抜粋

事業名 げんきいきいき・かじや村民大学

NPO法人かじやの里

1. 実績概要

【園芸学科】

教室名	計画	実績	達成率・参加者	主な原因
苔玉教室	3回・60名	1回・29名	48%	指導的人材の喪失
寄せ植え教室	3回・60名	2回・37名	61%	3回目募集人数少なく中止
山野草教室	3回・60名	0回・0名	0%	指導的人材の喪失
合 計	9回・180名	3回・66名	37%	山野草教室の中止が響く

主力メンバーのNPO退会を受け、計画を4回・80名に修正、結果は3回・66名で以下はその内容。

日時	参加者	内容
6月30日	29名	苔玉、場所:かじや館屋外
9月22日	18名	秋の山野草寄せ植え、場所:かじや館屋外
12月8日	19名	正月用寄せ鉢、場所:木楽館

NPOかじやの里の看板「園芸教室」は、回数・参加者数共惨憺たる結果に終わった。

【食育健康学科・パン教室】計画:6回・48名⇒実績:4回・56名(達成率117%)

日時	参加者	内容
9月8日	23名	ロールパン、場所:かじや館
11月10日	11名	アンパン、場所:かじや館
12月22日	11名	クリスマスケーキ、場所:かじや館
2月9日	11名	クルミパン、場所:かじや館

回数は4回に減ったが、参加人数は、上回った。

【生活文化学科・木工教室】計画:6回・60名⇒12回・135名(達成率225%)

日時	参加者	内容
9月～10月	3回・35名	木工教室説明会、体験教室2回
11日～3月	9回・100名	午前・午後で教室スタート、場所:木楽館

回数・参加人数共倍以上になった。



(左から6月苔玉教室、9月かじや館でのパン教室、10月木楽館での木工教室、の様子)

【かじや村民大学としてのまとめ】

学科名	計画	実績	達成率:参加者	自己評価
園芸学科	9回・180名	3回・66名	37%	最悪の条件下の奮闘、50点
食育健康学科	6回・48名	4回・56名	117%	課題を25年度解決、100点
生活文化学科	6回・60名	12回・135名	225%	予想以上、150点
合計	21回・288名	19回・257名	89%	課題を解決してきた、95点

園芸学科3教室は、担当理事をスタート直前で変更せざるを得ず、計画との乖離が大きかった。毎週金曜日を「園芸の日」とし、ガーデニング、寄せ植え等に取り組み、インストラクターを目指すことが重要と考える。食育健康学科・パン教室は、担当理事制が機能しなかったが、数字面では何とかクリアできた。

担当理事制が機能、講師方針が明確だった生活文化学科・木工教室は、予想以上の実績を残せた。

2. 1年間の活動で得られた成果

かじや村民大学は、かじや館を所有したことに伴う、事業型NPOに脱皮するための第1歩と考えている。この1年間は、まさに問題解決の連続であったが、事業をやる場合、一番大切な人材に次々出会えたことが何より大きい。これは、25年度以降につながる財産と考えている。

この1年間で学んだこと

1. 十分な事前準備が重要であること
2. 責任者(担当理事)の熱意と見識がないとだめなこと
3. ボランティアスタッフの向上心(インストラクターを努められるレベルを目指す)が大切なこと
4. PDCAのサイクルを回すためには、現場を良く見る必要があること
5. 教わるだけでは、本質を理解できない、自らやってみることが重要であること

3. 25年度の展望

【園芸学科⇒園芸コースに変更予定】

教室としては、寄せ植え教室だけである。

ただ、毎週金曜日を「園芸の日」と定め、かじやの里カフェの屋外を花で彩る活動を行う。

【食育健康学科⇒スローフード・食育コースに変更予定】

パン教室:担当理事・講師を変更、回数も倍程度に増やす予定。

麺調味料教室:麺づくりから塩麴・甘麴・醤油麴等の麺調味料とそれを使った料理教室を開講。

みそ作り教室:麺づくりからみそ作りを行う。

【生活文化学科⇒趣味悠々コースに変更予定】

木工教室:毎月第1火曜日の午前・午後で継続。安全に対する自己責任を明確化するため、改めて申込書と木楽館使用願いの提出を求める。自習日:第2～第4火曜日、第1～第4金曜日の7日間。

パソコン教室:24年度にパソコン5台・プリンター2台等を準備、4月2日9名の受講生でスタートした。インストラクター:4名、ボランティアスタッフ:担当理事以下5名、マンツーマン授業で月4回実施。

25年4月2日木工教室は確かな1歩を歩み始めた。スローフード食育コース3教室は25年度の重点教室とする。パソコン教室は、着実な歩みが期待できる。園芸学科は、かじやの里カフェ事業のガーデニングで大きな役割を果たすことを期待している。

25年度も、着実な歩みでNPOのミッション(元いきいきかじやの里⇒自助・共助で介護予防を推進する)実現に努力していく。

(事業名) 地域を元気に！エコツーリズム・プラットフォーム事業 【活動概要の発表】

エコツーリズム協会しが

【事業内容～実施した具体的な内容】

- (1) 浜大津の琵琶湖汽船内にデスクを置き、ネットワーク活動の拠点とする。(4月)
- (2) ホームページを立ち上げて、滋賀の魅力の発信とプログラムを紹介する。(10月)
- (3) 地域と連携し地域の資源を活かした視察エコツアー・プログラムづくり。(10月)
- (4) プログラムの中から視察エコツアーを企画・実施して、効果を検証する。(3月)
- (5) 日本エコツーリズム協会と連携しエコツーリズム・シンポジウムを開催。(10月)

【①計画目標と目的ごとの達成度】

- (1) 琵琶湖汽船内にデスクを置き、プロジェクト専任担当を設ける。《達成度⇒達成○》
- (2) ホームページを立ち上げエコツアー・プログラムを掲載・発信。《達成度⇒達成○》
- (3) 地域連携プログラムの中からエコツアーを3地域へ企画・実施。《達成度⇒達成△》
- (4) エコツアー・プログラムづくりのセミナーを3地域で開催する。《達成度⇒達成△》
- (5) ネットワークづくりを進めるため、協会の参加会員を拡大する。《達成度⇒未達×》

【②活動の成果】

- ・毎年エコツアー&セミナーを1コースを実施してきたが一挙に8コースを企画・実施→日本エコツーリズム協会連携の「環びわ湖エコツーリズム・プロジェクト事業」成果
- ・ホームページ開設による滋賀のエコツアー・プログラムの紹介と情報発信をスタート→エコツーリズム体験交流に取り組む地域団体と旅行エージェントを結ぶ架け橋になる
- ・地元との連携によるプログラム開発の実績により他地域へ広めるためのノウハウ集積→エコツーリズムを推進するプラットフォーム構築のファースト・ステップとしての成果

【③今後の課題】

- ・プログラムを多彩に集約しネットワーク参加の会員増強を図る→2013年度内10団体⇒今回の事業で目標が達成できなかった理由
- ・事業全体の立ち上がりの遅れ→日本エコツーリズム協会助成事業の承認遅れ
- ・欲張った量の事業を計画した→エコツアーおよび地域セミナーの開催数未達
- ・マンパワーの有効活用が不足→対象団体の地域拡散と事前打ち合わせの手間

【その他：主催者側・地元側にとっての成果】

- ・地域の資源（宝もの・地域自慢）を都会の人に紹介する交流ビジネスの形が見えた
- ・地元団体にも体験交流プログラムの企画・実施に対するモチベーションが高まった
- ・モニターツアーとしてお客様の評価も得られたことで受け入れ側にも意識の変化あり

【事業の経過～情景写真】 事業ムービー制作・スリーヴエコ！の展開と活動（各事業）



山内エコクラブ打合せ



愛東視察ツアー打合せ



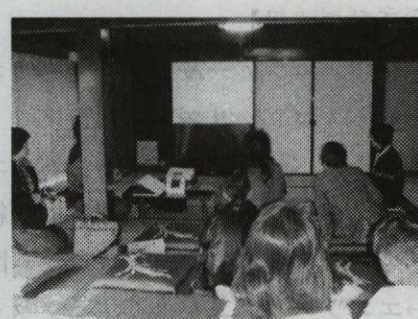
山内エコクラブ視察ツアー



愛東視察エコツアー



伊吹視察ツアー打合せ



伊吹視察エコツアー



視察エコツアー・チラシ



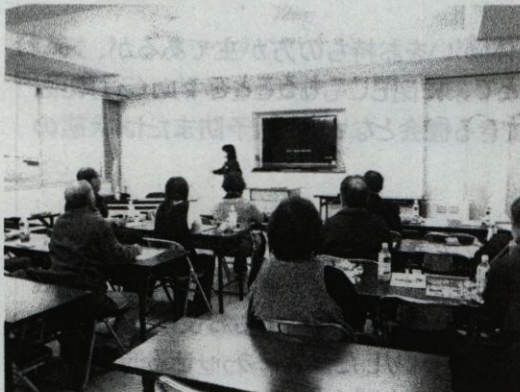
主催エコツアーチラシ

団体名 特定非営利活動法人 外出支援ボランティア スマイル

計画目標と 目標毎の達成度	(1)外出支援事業 町内の要支援・要介護高齢者及び障がい者の外出の送迎を行い、地域の保健福祉に寄与することを目的とする。 (2)ボランティア活動育成事業 ボランティア意識を持つ人が社会貢献できる事業として、ボランティア運転者を募り、生き生きとした活動ができるよう工夫する。総会・定例会・交通安全教室を行う。	100% 1年間実施 100% 協力者増加
活動の成果 (地域社会への 影響など)	(1)外出支援事業 高齢者や障がい者にとっては、通院や買い物にドアからドアへの送迎という支援が必要不可欠である。高齢化が進み、高齢者のみの世帯は著しく増加しており、免許証を返還された高齢者は交通手段をなくされ、外出支援の需要は増える傾向である。当事業は、生活に密着したなくてはならない存在として、利用者に大変喜ばれている。 今年度の活動実績を数字で見ると、 活動件数 4月～3月 670件(月平均 56件)——昨年度 540件(月平均 45件) 実利用者数 50人(月平均 24～25人)——昨年度 46人(月平均 23～24人) 協力ボランティア運転者 20人(月平均 15～16人)——昨年度 17人(月平均 12人) 主な外出の要件は、医院へ受診または面会やお見舞い、買い物、理美容、介護施設への通所や帰宅、親戚宅での法事、役場や金融機関での手続き等である。身近な外出手段として気軽に利用され、利用は増えている。 この活動は、退職などで余暇のできた人が社会に貢献するボランティア活動として適当なものとなっている。退職してもまだまだ運転等は十分にできるし、社会貢献したいという方は多く、そういう方のボランティア意識でこの事業は成り立っている。地域に根差し利用者に喜ばれることで、生きがいにとなり、健康維持に役立っている。 また一方、利用者は要支援や身体障がいをお持ちの方が主であるが、気軽に外出できる当事業を利用することで、家に閉じこもることを予防し行動範囲を広げたり、運転者とふれあい会話できる機会となり、介護予防または状態の維持改善に役立っている。 実際、利用者さんからは、「スマイルの運転者さんは地元の方やで親切に言うてくださる。」「気軽に頼めていつも助けてもらっている。」などの声を聞く。 また、ボランティア運転者からは、「空いた時間、少しでもお役に立てれば。」「お年寄りの話を聞くのも勉強になる。ゆっくりした動きにあわせる時間も自分にとって貴重なものになっている。」などの声を聞く。	

	(2)ボランティア活動育成事業 交通安全教室を行った。町駐在所の梅原孝子さんを講師に、安全運転の意識を高めるべく研修した。DVDで事故の映像を見たり、竜王町での危険箇所についてや、より安全運転のために気を付けることを、梅原さんのお話により学んだ。見通しのよい交差点でも減速して左右の安全確認をすること、事故の時は人命救助を最優先すること等、確認しあった。
今後の課題、その他	・利用者さんが安心して外出できるよう、また運転者さんが生き生きとボランティア活動ができるよう、さらに工夫、検討していきたい。 ——過密スケジュールになって焦って運転することがないように、予約受付時からゆとりを心がけたい。 ——運転者にジャンパーと帽子を支給。目立つオレンジ色で、利用者さんに見つけてもらえやすく、また運転者にはスマイルの活動に誇りを持ってもらい、外部にむけてはスマイルの宣伝効果もあると思われる。利用者さんに安心感を与えるよう工夫していきたい。 ・ひとり暮らし高齢者などにも利用対象者を広げてほしいとの要望がある。 ——利用対象者については、運営協議会で決められるが、タクシー業界の承認も必要であり、難しいと思われる。 ・利用者乗車中の走行距離に対し料金を頂いているが、待ち時間の料金についても考えてみたらどうか。 ——その場で待つ場合やいったん帰る場合などさまざまなため難しいが、これも運営協議会で決められることのため、検討してみたい。 ・利用者、運転者とも増え、地域に認められた事業として継続的に進めている。これからも、地域福祉の向上のため、町福祉課、社会福祉協議会、町内介護事業所と連携をとりながら、ひとりひとりの要望に応じたきめ細かい支援ができるよう努めていきたい。

交通安全教室



「見通しの良い交差点での事故が多いです。」

送迎風景



「スマイルさん頼んで、サボらんとリハビリ行けるわ。」

計画・目標

子育て中の親子を対象に、親はストレッチや機能改善運動を行い、子どもは別室で保育士と一緒におもちゃ遊びや音楽リズム、紙芝居などを楽しむ時間を持つ。親と子が離れて過ごす時間を持つことで、親はリフレッシュ、子どもは同年代の友達と遊ぶ経験を持つ。

目標の達成度・・・90%

(アンケートの結果から)

- ・親が体を動かすことでストレスを発散できた。
- ・普段の生活にない動きができるので体が軽くなった。
- ・子どもと一緒に参加できる親のリフレッシュ活動が他にはないので良かった。
- ・子どもが友達と遊ぶ時間が持てて良かった。
- ・家ではできない遊びができた。

中間報告よりも達成度が上がった理由は、親と子どもを同室制にしたことと、親の活動を毎月固定せずに、色々（エアロ、ヨガ、ピラティスなど）な活動を取り入れたこと。

活動の成果と今後の活動

活動の成果

- ・子どもの活動場所はたくさんあるが、子どもを連れて行ける親の活動場所は少ない。
- ・子育てのしんどい話を聞いて、頑張っていることを認めることで、子育てへの気持ちが前向きになる。
- ・親と子どもが別室を望んでいる親は少なく、後半、親子同室制にしたことで、子どもが安定し、親も安心した。
- ・活動に参加することで、子どもも集団に慣れる。
- ・子どもの保育内容よりも、親の活動内容の充実が必要（親は毎回同じ活動よりも、違う活動を望んでいる。）
- ・チラシ配布も必要だが、人が人を呼んでくれることがわかった。（口コミ）
- ・参加無料で参加してもらい、どんな活動かを知ってもらうことも宣伝になる。

親子で参加し、ともに楽しい時間を過ごせることが大切である。
保育の場所や親の活動、宣伝方法などで学ぶことができた。

懇話・面談

今後の活動
今回の親子リフレッシュ活動（エンジョイ・レッスン）を継続していく。
今年度は、助成金で活動してきたが、会員制にして4月から毎月1回行う。
すでに、18組の参加申し込みがあり、活動の準備をしている。

親の活動だけではなく、親子できる親子ヨガや親子フラダンスなど、親子で
する活動も計画中。また、保育士としての経験を生かし、子どもの保育も自由
遊びでなく、製作や音楽リズムなども取り入れたいと思っている。

25年1月から3月は、エンジョイ・レッスンと並行して、大津市市民提案
で親子工作活動を行った。大津市のホームページや広報などに活動을載せて
もらうことで、マザー・サプリーとしての活動を多くの人に知ってもらえた。
この機会にマザー・サプリーの独自活動を充実させたいと考えている。



親子ヨガしている様子
子どもと一緒にすることで、スキンシップを図る

石山まちかど教師塾 活動報告

事業の目標 - 「地域」で「子どもと大学生」が学ぶことの価値を高める。 -

「未来の社会の担い手」となる子どもをより良く育てることは、社会的課題の一つです。しかし、見落としがちであるのが「子どもをサポートする『教師』をどう育てるか」という視点でしょう。とりわけ、「大学生」は学校現場に立つまでにさまざまな「社会経験」をすることが重要な課題です。

トパスは、教師をこころざす「大学生」が、専門を活かしながら課題を持つ地域の子どもたちをサポートすることを通して、「子ども」と「大学生」が実践的に学ぶ場づくりを目標（ミッション）にしています。

2009年より主に大津市の小・中学生の教科学習の補修、テーマ別体験学習、「琵琶湖」や「科学実験」の企画実施、地域の社会活動（瀬田川の清掃など）への参加、などの地域活動をしてきました。

実施内容

○まちかど塾：中学生の学習補助を目指す授業実践プログラム

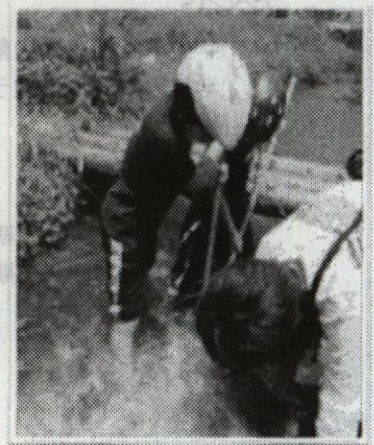
- ・毎週水曜（中2,英数） 19:00～20:30
- ・生徒の自宅のマンションのコミュニティホール
- ・参加者：定員5割（5名 4月時点）
4名→1名→3名→8名→6名

○科学じっけんワークショップ：身近なものを使った科学実験ワークショップ

- ・7月14日@城南小学校
小学生：約160名
保護者：約30名
大学生：約20名
- ・9月29日@河瀬小学校
小学生：約70名
保護者：約20名
大学生：約20名

○石山環境プロジェクト：大津市三田川でのフィールドワークショップ

- ・日程と内容
- 7月8日（第一回）
 - 1、オリエンテーション 19:00～20:30
 - 2、川の安全・マナー講習
 - 3、三田川で生き物を調べよう
- 7月22日（第二回）
 - 1、生き物観察ケースをつくろう
 - 2、身体の感じ方をオノマトペで言ってみよう
- 8月5日（第三回）
 - 1、生き物をつかまえて観察しよう
 - 2、身体の感じ方をオノマトペで言ってみよう



8月7日（第四回）

- 1、生き物をつかまえて観察しよう
- 2、身体を感じ方をオノマトペで言ってみよう

8月20日（第五回）

これまでの活動を振り返ってスケッチブックに書こう

○地域社会との交流活動

7月4日、11日 授業参観の実施（まちかど塾）

滋賀県教育委員会生涯学習課 社会教育主事の招聘

8月29日 保護者、子どもとの懇親会（まちかど塾）

9月16日 マザーレイクフォーラムびわこ会議への参加

10月28日 瀬田川クリーン作戦（清掃活動）への参加

12月19日 クリスマス会の実施（まちかど塾）

○研修会

12月19日 川中大輔氏のワークショップ・講義

○広報資料

・6月配付 まちかど塾チラシ

・広報活動

5月30日 トボスの活動紹介@立命館大学「地域参加学習入門」



今度の課題と展望 - 活動の方向性 -

○まちかど塾【継続】

- ・場所がマンションのホールに。
→保護者との信頼される関係づくり
- ・回数が月二回に。
- ・高校受験に向けた学習の補助。

○石山環境プロジェクト【一部停止】

- ・実践活動は停止。論文としての考察活動は継続。

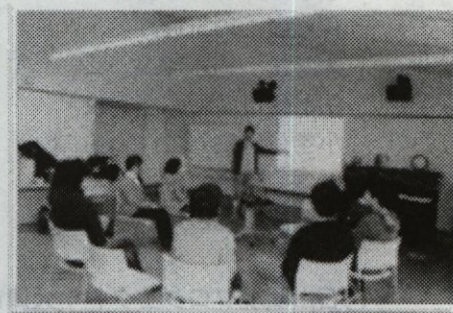
○科学実験ワークショップ【未定】

- ・依頼があった時点で現役メンバーで協議

→次年度に向けてウィークエンド部より連絡はきている

○地域との交流活動【未定】

- ・現役メンバーで協議



成果

- ①学生の実践の場の創出と合致する保護者のニーズ・期待の発見
- ②学校、家庭とは違うコミュニケーションを生む、もしくは促進させる機能を担っている（居場所）

課題・展望

- ①保護者のニーズ・期待の本質的な理解
- ②個別的なニーズ・期待を一般化し、社会的なニーズへ

未来ファンドおうみ2012 実績報告(概要版)③

事業名	地域ささえあいネットワーク事業		
団体名	特定非営利活動法人 元気な仲間		
当初計画の概要	かつて、地域には近隣同士の温かいふれあいや助け合いがありました。しかし昨今社会構造が大きく変わり、昔のようなふれあいや助け合いの気持ちが薄れて行っています。そのような社会の中で新しい支えあいのあり方をみんなで考え『自分たちの住む町を自分たちの手で住み続けられるようにしたい』行政に任せたり、頼るだけでなく、地域住民みなさんでお互いに助け合っていくという趣旨で行われている活動が始まっています。 この事業は、今の時代に合ったふれあいや助け合いの活動をしていただける地域住民を増やし、その活動をしやすいお手伝いの為の講座実施やネットワーク化など、活動していただける個人個人の横のつながりを作るととともに、現在高島で行われている住民参加の仕組みを実施されている団体の皆さんとも一緒に考えたり、勉強したりする団体と団体の横のつながりを作っていきます。 また、地域住民同士の触れ合いの居場所の運営も行い、実際の地域での活動につなげます。		
①計画目標と目標毎の達成度	I【地域活動担い手の育成事業】(達成度100%)		
	①まかせてサポーター養成講座		
	日時	内容	参加者
	5/17(木)10時～12時	高齢者との上手な関わり方 (認知症サポーター養成講座)	12人
	5/24(木)10時～12時	子どもとの関わり方(今どきの子育て)	9人
	5/31(木)10時～12時	高齢者や子どもの人権・サポーターの心得	11人
	②子育てサポーター養成講座		
	日時	内容	参加者
	6/28(木)10時～12時	子どもの栄養と食生活	12人
	7/5(木)10時～12時	今どきの子育て支援とは	12人
	7/12(木)10時～12時	幼児安全法	9人
	7/19(木)10時～12時	五感に響かすチャイルドケア	9人
	7/26(木)10時～12時	身近にある物で簡単おもちゃ作り	12人
	③まかせてサポーター養成講座		
	日時	内容	参加者
	12/12(木) 9時～11時	介護サービスの理解・認知症サポーター養成講座	11人
	11時～12時30分	高齢者との上手な関わり方	
	13時30分～15時	よくある事故と対応方法	
	15時～16時	人権と心得	
	④子育てサポーター養成講座		
	日時	内容	参加者
	12/13(金) 9時～11時	保育の心	7人
	11時～12時30分	子どもの栄養と食生活	
	13時30分～15時	幼児安全法	
	15時～16時	保育サービスについて(行政の制度やサービス)	
	⑤ふれあい支え合いのまちづくり研修会		
	日時	内容	参加者
	3/14(木) 19時30分～21時	ふれあい支え合いのまちづくりについて・さわやか福祉財団の取り組み NPO法人エフ・エー事例報告 NPO法人宅老所心事例報告 (企画・連絡・調整担当する)	約20人

⑥その他

Ⅱ【ネットワーク事業】(達成度100%)

①ふれあい居場所事業

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	8回	9回	9回	10回	9回	8回	9回	9回	9回	8回	8回	10回	106
参加	44人	48人	53人	52人	47人	47人	50人	52人	36人	35人	41人	42人	547

②サポーター交流事業

9月17日：ゆめばれっとフェスタにサポーターで出店参加する。会員やボランティアの皆さんと交流を深め、意見や情報交換をした。

9月22日：新旭ふくしまつりに出店参加。サポーターの協力を得て市民の方に事業アピールおよび広報活動や交流をした。

③事業所連携事業

日時	場所	内容
平成24年6月22日	元気な仲間	事務局会議(社協と協議)
平成24年7月17日	今津あいあいタウン	自己紹介・活動の報告・その他
平成24年10月25日	元気な仲間	事務局会議(社協と協議)
平成24年12月6日	アイリス	連携の取り方・除雪時の対応ほか
<参加団体>高島市シルバー人材センター・生活協同組合コープしが・NPO法人ナルクびわこ高島・ぎょうれつ本舗・グリーンハート・ボランティアチーム針畑・生活支援ボランティアグループでんでん虫・今津地区ボランティアセンター運営委員会・安曇川地区ボランティアセンター・高島市ボランティア福祉学習センター・高島市社会福祉協議会・NPO法人元気な仲間		

②活動の成果(地域社会への影響など)

『地域担い手の育成事業』の実施により、ボランティア活動に興味のある方やサポーターにはなりたいがどう動いていいのかわからない方たちが講座を受講し、高齢者や子どもの対応方法などを学び、たすけあい活動や地域でのボランティア活動などがスムーズに行えるようになり、たすけあい活動が増えた。

『ネットワーク事業』については、高齢者や障がい者など色々な方にサロンに参加していただき、地域住民のつながりを作ることができた。また、サポーターについては元気な仲間を拠点とした活動やイベント参加等によりサポーター同士が話したり相談できる仲間作りができた。生活支援事業を行っている各事業所や団体についても、活動していくなかで、できない部分を補いながら一緒に取り組む意識になった。

③今後の課題、その他

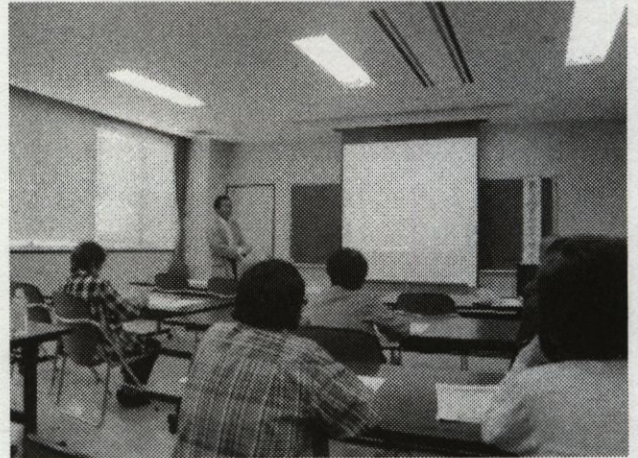
『地域担い手の育成事業』は、どのように講座を設定すれば住民の皆さんの参加が望めるのか、日程や広報の方法、期間について検討する必要がある。なお、今後も基本的な知識を持ったサポーターが必要とされるため、講座についても継続していかなければいけないと思う。また、困難な困りごとが増えてきているため、対応できるサポーターを増やすためのスキルアップ講座も検討していく必要がある。

『ネットワーク事業』については、市民に対して地域の支え合いを行っている事業所や団体の紹介ができるよう、冊子にわかりやすくまとめるなどの工夫が必要である。また、各地で地域住民が参加できる居場所づくりや、その担い手の育成についても進めたいと思う。

地域ささえあいネットワーク事業

地域担い手の育成事業

・サポーター養成講座



・ネットワーク事業

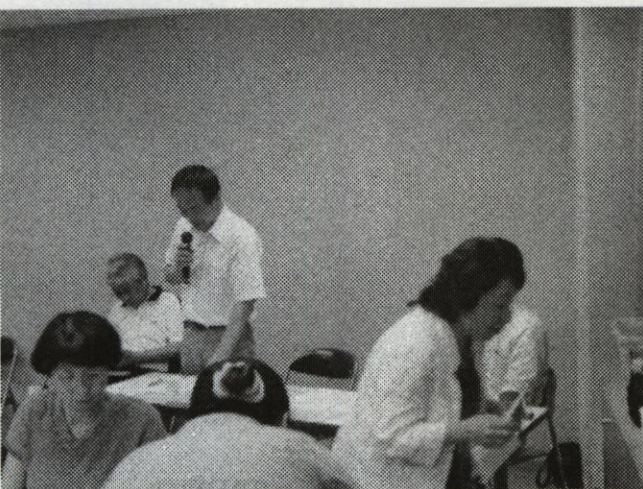
①ふれあい居場所事業



②サポーター交流事業



③事業所連携事業



【事業の目的】

＜イザ＞住民の誇りである豊かな自然などの地域資源が多く残っている「里山マキノ」



＜現状＞荒廃した雑木林の増加や獣害などの影響による里山の貴重な地域資源の消失



＜指標＞“やまおやじ”と春に可憐な姿を見せてくれる“かたくり”が健全な里山である



＜目的＞雑木林の整備活動をとおして交流や親睦を深め持続可能な活動の活性を図る

【事業の概要と成果】

① 里山再生サポート事業

- ・プロジェクトの結成
- ・整備活動のフィールド確保
- ・「里山しばかり隊」の結成
- ・事業経過の情報発信

達成度100%

② 里山再生整備事業

・整備活動

第1回整備活動：7/7

特別整備活動：7/24

第2回整備活動：9/8

合計 第3回整備活動：10/13

第4回整備活動：11/17

第5回整備活動：3/9

合計 特別整備活動：3/24

達成度100%

③ 里山交流促進事業

- ・「里山交流会・講演会」の開催
- ・石窯ピザ作り体験（しばの活動）
- ・県青少年局事業（整備体験）
- ・教育旅行メニュー化（整備体験）

達成度100%

里山整備の仲間たち（里山草刈り隊）



里山整備作業



雑木の搬出作業



現地確認



【今後の課題、その他】

- ・里山整備フィールド所有者（地権者）との関係（A地区）

平成24年度の整備・・・実施
かたくりの里の開園・・・理解得られず



整備活動の継続は困難
（地域資源としての共有は不可）

- ・里山整備フィールド所有者（地権者）との関係（B地区）

平成24年度の整備・・・実施
今後の整備維持管理・・・理解



整備活動・維持管理の継続
（地域資源としての共有）

- ・新たな里山整備フィールドの模索
（関連施設・地域活動団体と連携）

- ・里山整備フィールドの有効活用
（整備体験をメニュー化する）

- ・「里山草刈り隊」の活動の展開
（地域のサポーター化）



里山整備体験



整備体験ツアー



里山観察会



里山整備フィールド（B地区）



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 1-1-20

TEL.077-524-8440 FAX.077-524-8442

E-mail:office@ohmi-net.com ホームページ: <http://www.ohmi-net.com/>

おたがいさまがつながり、活きる。

個人の気持ち、企業のCSR、
様々な“志”を地域を支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。



寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方、お気軽にお問い合わせください。